



司馬遷の史記 (2000年前の経済的な感覚)

3月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2022年3月1日(火)

最近、**司馬遷の史記**を読んでいる。

2000年以上も昔の感覚は、新鮮で簡潔で、本格的に現在を越えている。
現在の軽薄短小がいかにも文字通りといった低い印象を強くした。

史記 130 巻のうち、人臣の伝記を書き連ねた**列伝 69 巻の最初に聖人の精神論**を表現する「伯夷列伝」を置き、**最後に物質を重視する「貨殖列伝」**を配している。

人間精神の美しさの対極に、他の史書には見られない**物質主義**を強調し、「衣食足りてこそ」、2000年前においても、すべての活動の基盤が、その**経済活動**にあることを明らかにしている。

約 2500 年前の中国春秋時代末期、江南の「呉」と「越」は天下の覇者の地位をかけて中国を二分する抗争を演じた。いわゆる「**呉越戦争**」である。

「范蠡」は、「越」の重臣として、「越王勾踐」を助け、艱難辛苦に耐えて、「呉」を滅ぼした後、「**久しく尊名を受くるは不詳なり**」と、「飛鳥尽きて良弓蔵され、狡兔死して走狗(犬)煮らる」の言葉を残し、越を去った。

「越」を富強にした范蠡の理論と実践は、**范蠡計然の七策**と言われ、次のようなものである。

①時節に心して必要なものを知る、②五行説に従い経済と自然の循環を知る、③物価は循環するので、安い時に仕入れ、高い時に売る、④農民を疲らせるような安価は商業も停止させる、⑤物質の流動は、治国の道である、⑥物資は場所を適切に変更することによって流通する、⑦物資の流通は、人に依存せず自分の責任で行う。

范蠡は、越を去る時にこう言った。

計然の策は七策あったが、我々は**その五策**を実行し、宿願である越の再興を達成できた。**残りの二策**を自分の家政に応用したいものだと言って、宰相の位を捨て、姓を朱公と変え、越(浙江省)から、齊(山東省)に移り経済活動を行った。

朱公となった范蠡は「**陶**」こそは**天下の中央**に位し、諸国との交通、交易の中心地であると考え、**商業を営み、物資を蓄積し、相場の変動を利用して利益**をあげ、個々人から搾り取るようなことはしなかった。

こうして 19 年の間に**千金の巨富**を積むこと**三度**に及んだが、そのうち二度までこれを散して貧しい友人や遠縁の者に分け与え、**陶朱公の富**を築いた。

司马迁的史记 2022.3.①

两千多年前的经济方面的思想 2022.1.1

我最近在看，司马迁的史记。

2000多年前的想法，又新鲜又简明，真正的超越现代，反而，现在所谓，是真正的「轻薄短小」，给人一种低端的感觉。

史记共计130卷。从才61卷开始为人臣传记，即“列传”。

此外开篇为表现圣人精神的列传69卷中，

最初，放在圣人的「伯夷列传」，结尾为侧重物质内容的「货殖列传」。

俗话说，「衣食足则知荣辱」，表示人的生活基础是一切经济活动。

大约2500年前，春秋时代末期，在江南地区有「吴」和「越」两国。为了得到天下霸权的地位，发动天下两分的战争。这就是有名的「吴越战争」。

越国胜利后，印臣范蠡说「鸱尽良弓藏，狡兔死走狗烹」。他认为大敌之下难以久居，对越王勾践说，「君行令，臣行义」，逃往，乘船浮海以行，离开越国。

在越国范蠡实行「计然七策」，使越国富强。就是：

- (1) 时用则知物，研究，需求供应的原则。
- (2) 据五行说，知道经济的运行规律，理解物价使其自然运行。
- (3) 理解物价的原理，低买高卖。
- (4) 调节物价，使农商流动，治国之逆。
- (5) 米价20钱太低，农民经济疲惫，农业生产停止，从向商出售。
- (6) 朱公以为「陶」是天下货物交易之所。
- (7) 物在积蓄，与时为买卖，而不羞于人。

范蠡离开越国时，说：

计然七策中用五策，而越兴。我要到用余二策，进行自己的经营。

他改名换姓去山东「陶」居住。

根据在这里进行交易，积蓄物质财富，研究价格涨跌，事业获得成功。

在19年内，他得了三次千金巨富，其中两次分散给贫苦，兄弟。从而积累「陶朱公的财富」。